

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香 川 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	大野原町立大野原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	3	3	3	19	32
児童数	95	74	95	75	87	81	5	513	

研究の概要

1. 研究主題

**生きる力をはぐくむ 豊かな学びの創造**  
 - 確かな学力の向上をめざす少人数指導の工夫 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

算数科については、1学年～6学年で実施する。  
 教科の中で、特に個人差が大きいとされる算数科で全学年を通して少人数授業を導入することで、系統的に個に応じた指導を推進することができる。  
 国語科については、1学年～4学年で実施する。  
 国語科においても少人数授業を導入することによって、読むこと、書くこと、言語事項の基礎的な学力を身に付けることができる。また、児童の多様な考え方を引き出すことにも効果があると考えられる。国語科における基礎・基本の定着は、特に低・中学年の学習が重要となることから、1学年～4学年において少人数授業を実施する。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ                      国語科・算数科におけるコース学習と評価のあり方                      研究の見通し（仮説）                      児童の課題意識や習熟度に応じた学習を展開することによって、一人一人に確かな学力をつけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法                      (1) 授業研究における観点                      国語科・算数科の学習における基礎・基本を明確にする。                      少人数授業における教師の役割を明確にする。（発問・助言，指導的評価のあり方）                      算数的活動を取り入れた授業展開および単元構成の工夫をする。                      （発問・助言，資料提示の仕方，学習意欲を高める単元構成）                      個の学習，ペア学習，グループ学習等をうまく取り入れた学習展開の工夫を行う。                      単元構成及び学習問題の構成を明確にする。（課題別・習熟度別学習の推進）                      学習活動のどの場面で評価するのかをはっきりさせる。</p> <p>(2) 評価と評定                      評価規準を考えた年間計画の作成                      単元における観点別評価基準を考えて学習計画を立てる。                      評定の仕方                      市販テストを活用し，観点ごとに評価基準を考えて評価する。                      日常のテストやノート，表現物等の評定における評価の割合について共通理解を図る。                      教師の観察記録をどのように評定に生かすかを探る。                      国語科における作文・表現等においても，評価の観点を明確にして，点数化による評価を行う。</p>
--------	--

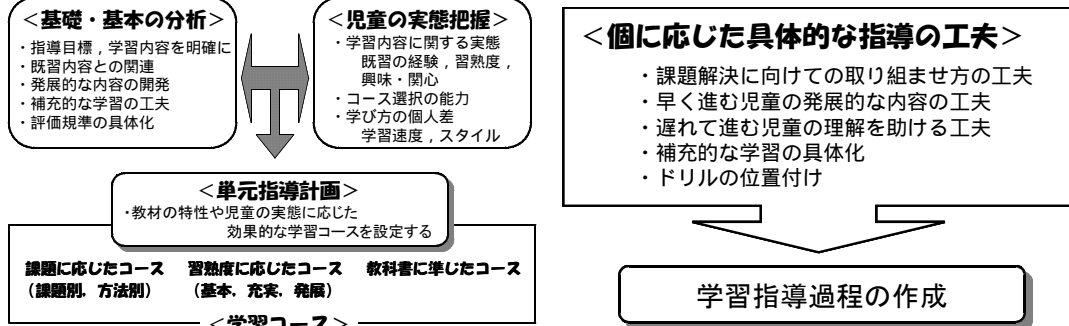
テーマ 国語科・算数科における習熟度別・課題別学習の推進

研究の見通し

児童の課題意識や習熟度に応じた学習をさらに推進することによって、一人一人の児童の学習意欲が高まり、確かな学力をつけることができるであろう。

研究の内容・方法

(1) 国語科・算数科単元指導計画の工夫 (2) 個に応じた指導の工夫



(3) 児童を生かす評価

< 評価の視点1 「関心・意欲・態度」「思考・判断」の評価の工夫 >

「関心・意欲・態度」については、学習への態度面だけでなく、教科の内容に関しての評価の在り方を探る。特に、授業中の反応や表現物などを手がかりに、見取りの方法を工夫する。

「思考・判断」については、ペーパーテストだけにたよるのではなく、一人学びの中での思考の様子がノートやワークシートに残るような学習を位置付けるなどして、学習状況をつかめる評価に取り組む。

< 評価の視点2 評価の場面や方法の工夫 >

診断的評価、形成的評価、総括的評価をうまく組み合わせて、「指導と評価」の一体化を図る。そのためには、どの場面でどんな評価が効果的かを考えることが大切である。そのなかで、評価が、児童には次の学習コースを選択する手がかりとなり、教師には学習コースの設定や児童が達成していない内容の補充を考える参考になるようにする。

また、評価の場面や方法を工夫し、学習の成果だけでなく、学習の過程における評価を工夫する。

< 評価の視点3 自己実現に結びつく評価 >

児童が自らのよさを十分に発揮しながら、豊かな自己実現を図っていくことができるように、教師は一人一人の学習状況を的確にとらえ、それに応じて励ましたり、受容したり、賞賛したりできるように取り組んでいく。

また、児童相互が互いの見方や考え方のよさに気付き、認め合い、互いに共感しあえる相互評価を工夫する。

< 評価の視点4 生きる力につながる自己評価 >

児童が自らの学習の実現状況を的確にとらえ、どこをどのように改善したらよいかを適切に理解できれば、自分の学習への興味・関心を広げる契機になり、学習への目標が明らかになる。また、コース選択能力も高められる。そこで、児童が主体的に学んでいこうとすることができる自己評価の在り方を探る。

(4) 基礎・基本の定着の工夫

< 定着の視点1 ドリルの日常化 >

朝のドリルを継続する。算数は、月曜日に「基礎計算」、木曜日に「学年計算」を行い、主に「表現・処理」「知識・理解」の力を伸ばす。国語は水曜日に「作文や漢字」、金曜日に「読書や音読」の活動を行い、主に「書く」「読む」の力を伸ばす。その際、児童の意欲化を図れるように、取り組みや評価に変化をもたせる工夫をする。そして、評価を通して、定着が十分でないところの補充学習をしたり、重点的にドリルを行ったりして確実な定着をめざす。

< 定着の視点2 自主的に取り組めるドリル >

児童が自分の学習状況や興味・関心に基づいて自主的に取り組めるドリルを作成する。学年の系統性を明確にし、つまずきに対応できるドリルを開発する。

(5) 教育環境の充実

日常的に国語や算数に関わるものに目が触れたり、手で触れたりする環境を整えることで、意識や関心を高めるよう工夫する。そこでは、教科での学習を自分なりに発展させたり、補充させたりするとともに、生活につながるような内容の工夫を図る。

研究の方向性に大きな変更はないが、研究の視点・研究の内容・方法を見直して再編成したことから、表現を上記のように改善した。

平成16年度

テーマ 国語科・算数科における少人数授業・評価システムの確立

研究の見通し

児童の実態に応じた少人数授業をさらに推進することによって、一人一人に分かるきめ細かな学習が展開され、確かな学力と学び方が身に付くであろう。

研究の内容・方法

(1) 単元指導計画の確立

- ・基礎・基本を明確に位置付けた学習指導計画
- ・補充的な学習や発展的な学習の指導計画への位置付け
- ・効果的な学習コースの設定と指導計画への位置付け

(2) 個に応じた指導の充実

- ・補充的な学習や発展的な学習の教材・教具の開発と活用
- ・個に応じた支援のあり方の追究
- ・表現力や思考力を伸ばす交流活動の工夫と充実

(3) 児童を生かす評価

- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断」の評価システムの完成
- ・評価の場面や方法の工夫と指導計画への位置付け

(4) 基礎・基本の定着の工夫

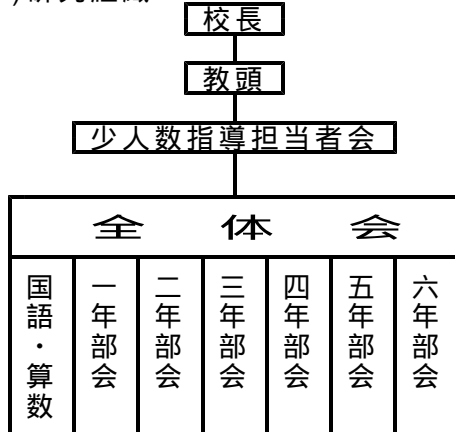
- ・自校開発ドリル（国語・算数30級システム）の見直しと活用（評価場面・補充・発展・家庭学習）
- ・ドリルの日常化（授業・ドリルタイム・放課後・家庭学習）

(5) 教育環境の充実

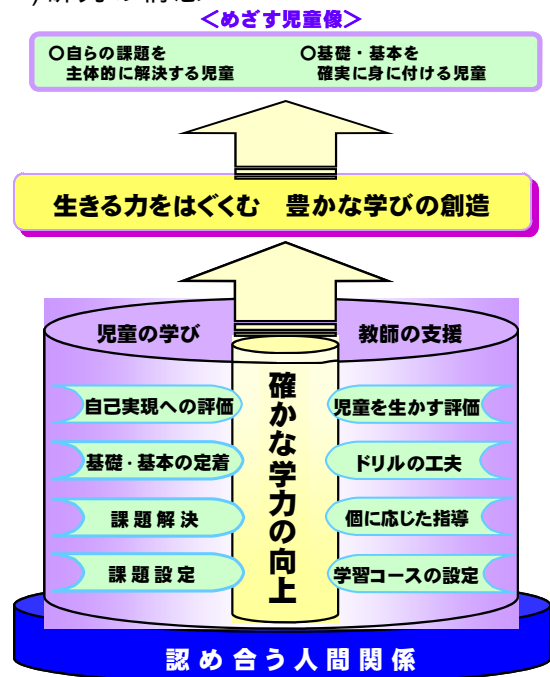
- ・空き教室の活用による国語・算数教室の設営と効果的な運営
- ・国語や算数に親しめる教室環境づくり（学習に関する掲示の充実）
- ・コース学習に対応した教材、教具の整備と充実

(3) 研究推進体制

(1) 研究組織



(2) 研究の構想



(3) 運営

全体会

- ・校内研修の研究内容を深めていく。また、学年部会や教科部会の研究報告、情報交換を行い、共通理解を図る。
- ・第1・2・3水曜日（15：15～）
- ・司会、記録は、輪番とする。1年団より始める。
- ・少人数指導担当者会
- ・研究内容や方法の立案をしたり、研究を深めていくための提案をしたりす

る。教科間や学年間の調整を図るとともに，研究の推進状況を評価し，見直しを図る。会は必要に応じて行う。

学年部会

- ・学年の少人数指導について研究内容に沿って研究し，実際に計画を立て実践する。
- ・実践授業，提案発表をすることにより，研究主題の実現を図る。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

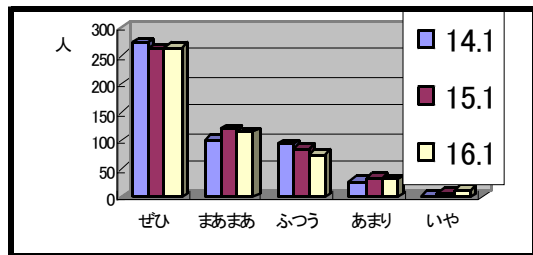
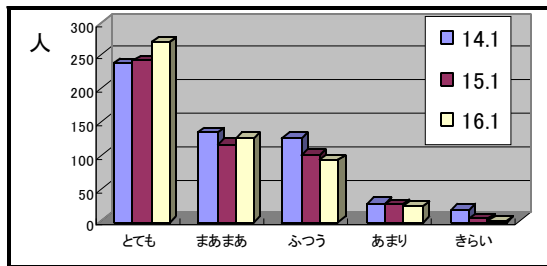
(1) 学習コース設定の工夫による学習意欲の高揚

学習コースの設定に当たっては，実態調査をし，児童の学習の実現状況と指導のねらいを照らし合わせて，課題別が効果的か，習熟度別が効果的かなどを判断し，より適した学習コースを設定することができた。その上で，単元毎に，児童に複数の学習コースから自分の実態や課題に合った学習を選択させたことは，個々の個性や能力をうまく生かしたり，伸ばしたりすることを可能にできた。

また，単元によっては，毎時間，学習コースを選択できるようにすることで，児童が学習への見通しをもち，工夫しながら取り組むことができるようになった。このようなコース選択は，児童に学習のめあてを明確にさせることができ，課題意識を育てる効果があった。また，個の分かり方に合わせて，具体での理解の段階に時間をかけたり，発展的な内容に取り組んだりするコースを設定したことで，児童の学習への満足感が高まった。

少人数授業の算数は好きですか？

算数のコース学習をやりたいですか？



(2) 個に応じた指導の充実による学力の伸長

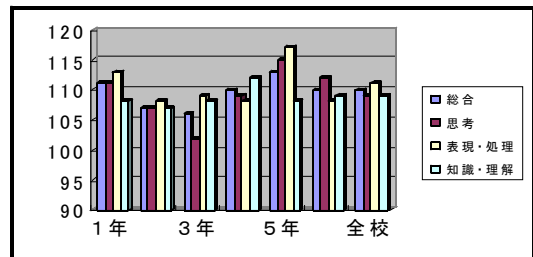
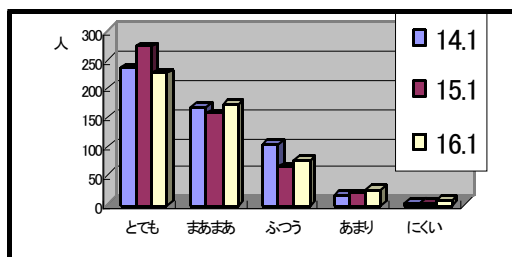
学習中には，一人一人の児童の学習の様子を把握し，児童の反応を全体に広げたり，必要な支援を行ったりと，個別指導をより充実させることが可能となった。特に，一斉指導であれば，ややもすると薄くなりがちな遅れて進む児童，早く進む児童への手立てが，習熟度で分けることで，より具体的なものになった。学習内容はもとより，それに合わせて焦点化した教材・教具や活動，ワークシート，ヒントカード，ドリルなどを開発し，有効に活用したことは分かる授業につながった。

このように個に応じた指導が充実したことで，発展コースでは学習内容や活動が多くても，次々とチャレンジすることが楽しいと感じる児童が多く，意欲化につながり，基本コースでは，「よく分かった」と感じる児童が多く，理解に合わせた指導による満足感や自信が得られている。さらに，これまで活躍しにくかった児童も，発表したり質問したりしやすい雰囲気になることから，全体の中での発言や活動の機会が増え，積極的に学習に取り組む態度が育ちつつある。

このようなことから，単元毎の評価では，平均点が全国平均より5～10%以上という目標をほぼ達成することができ，基礎・基本のより確かな定着につながったと考えられる。

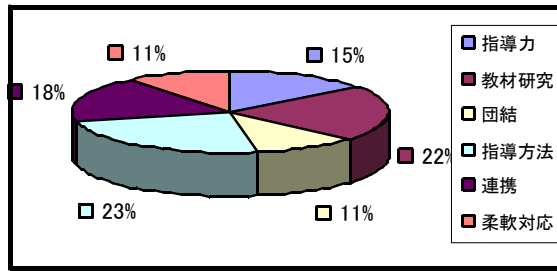
算数の勉強は分かりやすいですか

(算数観点別テスト 全国平均を100)



### (3)教材研究の深まりによる教師の授業力の向上

学年団で少人数指導の研修をもつことにより、教師が互いに学び合い、教材研究を深めるとともによい指導方法を共有化し、資質の向上につながっている。少人数授業による教師の変容



教師の65%が、少人数授業によって指導方法の工夫・改善が見られたと捉えており、それを支える教材研究によって指導力も向上したと感じている。

その他、学年団研修を通して教師間の連携や団結が深まったという意見も多い。

## 2. 今後の課題

### (1)発展的な学習や補充的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫

発展的な学習や補充的な学習の教材の開発に取り組むとともに、その効果的な位置付けや指導の在り方を具体化し、より個に応じた指導を充実させる。

### (2)基本コースの指導の手立ての充実

基本コースについては、分ける授業をめざしたスモールステップや教材・教具の工夫などさらなる指導の開発が求められる。また、共に学ぶ楽しさや学習への興味・関心を高める手立てなど、児童の主体性を引き出す取り組みを具体化したい。

### (3)交流の活性化への手立て

何を、どのようにして交流させるかを教材研究の段階で明確にし、共通理解をしておく。その際、話し合いを活性化させるために、立場を明確にした上で話し合いを組織化するなどの視点を大切にし、途中で課題交換をするなどの方法を工夫したい。

特に、習熟度別編成の基本コースでは、話し合いを成立させることが難しい場合がある。そこで、各自に考えをもたせるための細かな手立てや話し合いの形態、教師の関わり方などを工夫し、表現力や問題解決能力を育てるようにしたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

### (1)観点別単元テスト

時期：年間を通して、各単元の終了した時点

目的：単元の指導内容の定着状況を把握する。

内容：市販テストを活用して観点別に達成状況を把握する。

### (2)CRT観点別学力テスト

時期：毎年2月実施

目的：年間の指導内容の定着状況を把握する。

内容：市販学力テストを活用して、観点別に達成状況を把握し考察する。

### (3)意識調査の実施

時期：保護者(毎年9月)、児童(12月)、教師(12月)

目的：少人数指導に対する意識を把握し、指導の改善に生かす。

内容：質問紙方式(低学年は聞き取り方式)で意識調査を行い考察する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 1 地区別協議会での説明

#### (1)第1回地区別協議会

日時：平成15年6月20日(金)

場所：観音寺市

対象：地区別協議会委員

目的：本年度の研究の取組の概要説明

#### (2)第2回地区別協議会

日時：平成15年12月26日(金)

場所：観音寺市

対象：地区別協議会委員

目的：本年度の研究成果の中間発表

- (3) 第3回地区別協議会  
 日時：平成16年2月20日(金)  
 場所：観音寺市  
 対象：三豊・観音寺地区の小・中学校教頭，地区別協議会会長  
 目的：本年度の研究成果の発表と普及
- 2 研修会での説明
- (1) 香川型指導体制研修会(ポスターセッション)  
 日時：平成15年8月29日(金)  
 場所：高松市  
 対象：県内小・中学校教員  
 目的：本年度の研究成果の説明及び普及  
 自校開発ドリル教材・単元指導計画データ(FD)提供
- (2) 学習指導研修会(ポスターセッション)  
 日時：平成15年12月25日(木)  
 場所：綾歌町  
 対象：県内小・中学校教員，PTA関係者，一般  
 目的：本年度の研究成果の説明及び普及  
 国語・算数実践事例資料提供
- 3 研究会・授業公開
- (1) 公開授業  
 日時：平成15年10月29日(水)  
 場所：大野原小学校  
 対象：県教育委員，三豊観音寺地区小・中学校教員  
 目的：研究の概要提案，4年国語・6年算数 授業公開並びに研究討議  
 研究の中間まとめ(研究冊子)提供
- (2) 公開授業  
 日時：平成16年1月22日(木)  
 場所：大野原小学校  
 対象：三豊観音寺地区小・中学校教員  
 目的：研究の概要提案，1年算数 授業公開並びに研究討議  
 研究の中間まとめ(研究冊子)提供
- (3) 公開授業  
 日時：平成16年1月29日(木)  
 場所：大野原小学校  
 対象：文部科学省学校視察  
 目的：研究の概要提案，2年国語・5年算数 授業公開並びに研究討議  
 ( 研究討議は2/4 )
- 4 本校HPに校内研修のコーナーを設け，研究の概要や授業の実践事例等を掲載し，成果の普及に努めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)  
 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無